

IV 学校研究推進計画

1. 研究主題 問題を解決する子の育成

2. 主題設定の理由

小学校学習指導要領では、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」に向けての授業改善が必要であるとされている。これからの予測困難な時代に対応できる人材育成を目指しての授業改善が求められている。

昨年度、本校は「主体的な鹿西っ子の育成」を掲げ、研究を進めてきた。研究成果と課題をあきらかにした結果、単元デザインによる授業づくりによって、児童が自ら課題を設定し、友達と学び合うことで学習に前向きに取り組めるようになってきたことが分かった。しかし、「主体的な児童の姿」の明確化や共有化が難しいことが判明した。そこで、研究の焦点を「主体的な児童」から「自分の力で問題を解決できる児童」と変更し、「問題を解決する子の育成」を主題に設定することとした。

本研究で「問題を解決する」とは、「問題を解決したと実感できること」「問題を解決するために学び合うこと」「問題を解決できたかを明確にすること」とする。本校児童の育成すべき凡用的な資質・能力「問題発見・解決能力」と関連付けて捉えた。これらの資質・能力を育てるために、「単元デザインとふり返り」「学び合い」「問題を解決できたと実感できる場面」を設定する。教師は終末や単元末の姿を具体的に設定して、児童が達成できるように支えていく。そして、教科横断的な視点で授業改善を図ることで、「問題を解決する学び」が促進し、学び合いを通して問題を解決できるようになり、本校の目指す児童の姿「真剣に学ぶ かしこい子」「全力で活動する たくましい子」を育むことを目指していく。

3. めざす児童の具体的な姿（育てたい資質・能力「問題発見・解決能力」）

- ・ 学び合いを通して、自分の考えを明確にする児童
- ・ 単元を通して自分の成長を自覚する児童

4. 研究仮説

児童が「自分で問題を解決できた」と実感が得られるように授業改善を進めることで、学びを促進し、「問題発見・解決能力」を育成することができ、自分の成長を自覚する姿が見られるようになるであろう。

5. 研究の重点と具体的な手立て

重点①問題を解決したと実感できる「単元デザイン」

- ・単元のゴールを児童の言葉で明確に示し、単元をデザインする。
- ・児童が学びの姿を繰り返す場を単元内に2回以上設定し、成長を実感できるようにする。

重点②ー視点1 問題を解決するための「学び合い」（展開の場面で）

以下の方法から場合に応じて設定する。

- ・ペアやグループ，全体で学び合う。
- ・学び合いの視点（学ポイント）を絞って学び合う。
- ・条件を設定したり，良さを広めたりして，よりよい学び合いとなるように働きかける

重点②ー視点2 問題を解決できたかを「明確にする」（終末の場面で）

- ・タブレットやノート，ワークシートを使って児童の学びの姿を振り返らせ，自覚を促す。
- ・適用問題を解く時間をとり，問題を解決できたか確認する。
- ・友達に説明したり，音声を記録したりして，アウトプットした内容を確認する。

めざす児童の姿と検証方法

以下の方法で取組の検証を行い，PDCA サイクルを意識して新たな実践につなげる。

検証方法1 「活用問題」

- ・活用調査問題で通過率 活用 75% 以上

検証方法2 「授業参観シート」「単元末の児童の振り返り」

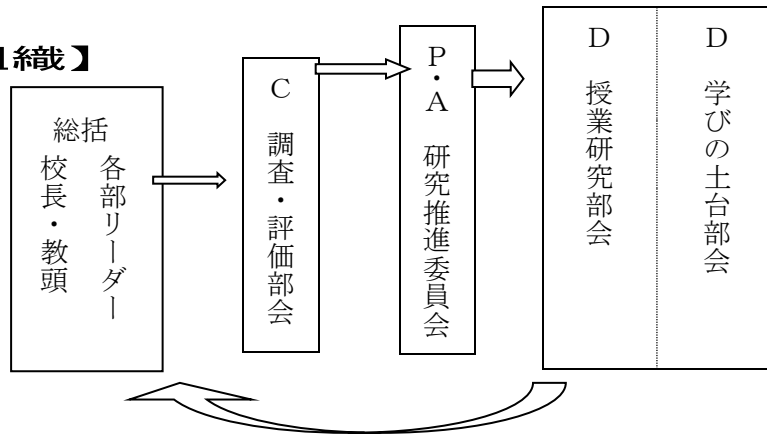
- ・設定した「終末の姿」や「単元末の姿」の達成率を計り，取組の有効性を検証する。

検証方法3・4 「児童アンケート」「教員アンケート」

- ・児童と教師の意識調査の結果を分析し，組織的な実践の質を検証する。

6. 研究組織と研究内容

【研究組織】



【研究内容】

総括		
C 調査・評価部会 ◎教務主任 (小林) (板谷) (教頭)	国・県・町学力調査の処理・分析・対策	小林
	各取り組みの検証 (児童・教員アンケート等)	板谷
	活用問題通過率の調査・分析	小林
	研究授業整理会の準備・運営 等	小林
PA 研究推進委員会 ◎研究主任 (石橋) 教務 (小林) 授業研究 (大濱) 学力向上 (宮元)	学校研究・研修全般の計画推進および統括	石橋 大濱
	学習体制作りの計画・推進	宮元 石橋
	学力向上ロードマップの計画・推進	石橋
	研修支援 (若プロ・OJT 担当)	小林
D 授業研究部 ◎授業力向上担当 (大濱) (真木) (三宅) (山本)	授業の取組に関するスキルタイム集会 企画・運営	真木
	校内公開授業の調整 (公マーク) 授業整理シートの作成・バトンブックの管理	大濱
	要請訪問における担当予定者の役割分担	三宅
	学習目標の設定・周知・状況把握・振り返りシート 児童への啓発 (学習目標 目指す授業 等)	山本
D 学びの土台部会 ◎学力向上推進 (宮元) (上田) (桶成) (三宅) (北野)	6星パワーの啓発・定着の徹底	宮元
	スキルタイム集会の企画・運営	稲實
	相互授業交流の実実施計画・連絡調整	上田
	スキルタイムの活用	桶成
	基本的な生活習慣・学習習慣の確立	北野

7. 研究年間計画 (別紙「学力向上ロードマップ」参照)

8. 校内若手教員研修計画書 (別紙「若手教員早期育成プログラム(鹿西小版)」参照)